

## 見学調査報告書

---

テーマ : 航空・鉄道貨物輸送の役割と課題  
ゼミ名 : 山本 慎悟ゼミ  
調査日 : 2019年9月27日(金)  
調査先 : 日本航空(株)JAL羽田貨物上屋/日本貨物鉄道(株)東京貨物ターミナル駅  
授業科目名 : ベーシック演習Ⅱ・専門演習Ⅱ  
参加学生数 : 8名(1年)、2名(3年)

### 調査の趣旨(目的)

海と空の玄関口である羽田と東京港に物流拠点を構える日本航空(株)と日本貨物鉄道(株)の事業所を訪ね、トラック以外の国内貨物輸送手段である航空貨物輸送と鉄道貨物輸送の役割を学ぶと共に、同業界における課題を探る。

東京港が我々の暮らしとどのような関わりを持っており、どのような役割を担っているかを知る。

### 調査結果

JAL カーゴでは国内、国際貨物を扱う航空輸送ならではの特徴を教えてくださいました。まずは「速さ」である。他の運送手段のコンテナ船では40km/hのところ、航空機では850km/hなので、計算すると航空機の1時間がコンテナ船の1日に相当することになる。次に「定時性」である。先ほど述べた航空機輸送の「速さ」に加え、JALの非常に高い定時定着率があるため、在庫をあまり持ちたがらないメーカーが必要なとき、必要な分だけの部品を受け取ることが実現できる。さらに「輸送品の種類」では手荷物はもちろん、工業製品や生鮮品などほとんどのものが航空機で運ぶことができる。適さない貨物としては危険物(身近なものではドライアイスなど)だそうだ。ペットや動物園のパンダ、温度管理が必要な医薬品、絵画やコンサート機材といった、スピードが要求され、かつ付加価値が高いものが輸送品になることが多い。また、地震や台風などの緊急時にイオンと連携し被災地などに物資をピストン輸送で早く届ける。航空輸送の「速さ」があるからこそできる災害支援も行っている。

日本貨物鉄道(株)では、東京貨物ターミナル駅の概要や鉄道コンテナ輸送のメリットについて、ビデオやパワーポイントを用いて教えてくださいました。東京貨物ターミナル駅は、大きな道路や東京港、羽田空港にも近接している日本最大の面積を有するコンテナ専用のターミナル駅であり、1日にここから34本もの貨物列車が発車し、34本もの貨物列車が到着している。鉄道輸送のメリットとして、CO2排出量がトラックの約11分の1と、どの輸送手段を使うよりも環境に優しいという点が1つ目に挙げられる。このことから、鉄道輸送を積極的に利用している商品や企業には、エコルールマークというものが貼られるなど、積極的にトラック輸送から鉄道輸送への転換を推進しているという。2つ目には、鉄道輸送は中長距離の輸送に適しており、1度で650トン、10トントラックに換算すると65台分にもなる大量の荷物を輸送することができるという点が挙げられる。このおかげで、トラックドラ

イバーの不足に対応したり、トラックの走行による燃料消費を削減することができる。さらに、輸送距離が 500km を超えるとトラックを使うよりも安く運ぶことができる点や危険物を運ぶときには道路を使うよりも安全に運ぶことができる点を考えても、鉄道コンテナ輸送のメリットがとても大きいということを今回の訪問で理解できた。



日本貨物鉄道(株)東京貨物ターミナル駅事務所屋上にて  
駅長および日本物流団体連合会事務局スタッフの方々と共に